

# 光貞まち協だより

第14号  
令和5年6月15日発行  
光貞まちづくり協議会（光貞市民センター）  
八幡西区浅川学園台2-23-2  
TEL 692-9469 FAX 692-9473  
発行責任者 会長 篠原廣一郎

光貞まちづくり協議会 会長 篠原 廣一郎

地域力の更なるアップを目指して！

新型コロナ禍の中、4年ぶりの対面での令和5年度まち協総会が無事終了しました。昨年は光貞市民センター開館30周年記念の区切りの年でした。昨年の今頃は、この記念事業をいかに成功させるか、役員一同、期待と不安の入り混じった話し合いをしていた記憶があります。

「案ずるより産むが易し」、早々に実行委員会を立ち上げ、各係を決めてスタートしてみると、皆さん俄然やる気がみなぎり、順調に準備は進みました。記念音楽会も記念式典も記憶に残る思い出です。「開館30周年記念誌」の作成では、「他にないものを創ろう」という皆様の思いと良い印刷会社にも恵まれ、立派な記念誌ができたとの自負があります。特に2つの目玉「光貞の今と昔の航空写真」「センターを利用する人の顔の集合写真」は大変インパクトのある企画となりました。

新型コロナ禍が発生して3年余り、この間、まち協、市民センターの活動は非常に大きな制約を受けました。幸い、ここに来てようやく長いトンネルを抜けた感があります。マスク着用の緩和、感染症法上の区分2類から季節性インフルエンザと同じ5類への引き下げ。願わくは、このまま終息へと向かってもらいたいものです。

今年度は、このままコロナ終息が前提ですが、3年中止していた文化祭、3世代ふれあい餅つき大会を何としても再開したいものです。特に、日本の伝統文化であります「杵と臼の餅つき」をここ光貞でも継承していきたい。もうこれ以上中止すると、餅つきの技を受け継ぐ人が光貞からいなくなるのではないかと危惧しています。皆で楽しく餅をついて皆で美味しく頂きましょう。

市民センター開館30年を経過し、これから先、更に40年、50年後に向かって、校区一丸となって「光貞の地域力」を高めて参りましょう。皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

光貞校区社会福祉協議会会長

光貞校区青少年育成会会長 前田 孝夫

光貞校区社会福祉協議会及び青少年育成会の会長の前田です。皆様には常日頃より、地域活動につきまして、ご支援・ご協力を賜りまして有難うございます。

社協として、令和4年度、社会福祉協議会では、5年度からの5か年計画として、「小地域福祉活動計画」策定しました。計画策定の委員になっていただいた方は、真剣に将来を考え、当初私が考えていた計画とは違った素晴らしい計画が出来ました。

私は、福祉と言えば、福祉の頭に付く、「高齢者」「障害者」「母子」等、どちらかという社会的にハンディーのある方たちへの施策と思っていましたが、先日のネットワーク会議で、現在の「ふくし」の考え方として、「ふ」は普通の、「く」は暮らしを、「し」幸せにすることだと、会議に参加していた、八幡西区社会福祉協議会の会長が言っていました。今回、作成した「小地域福祉活動計画」は古い福祉の概念とは違った、正に普通の暮らしの幸せを考えた、まちづくり全体に関する計画書になりました。

今回の計画書の目指す地域とは、「子どもから大人までが幸せと思える地域」、特に、子どもが幸せと思える地域は大人も幸せだと思えるのではなかろうかと、子どもにとって住みやすい地域を目指します。

子どもが笑顔で楽しいと思える社会はどんな社会でしょうか。ある委員は、「大人が笑顔であること」と言っていました。子どもは大人の顔色を窺っていて、大人が機嫌が悪いと子どもは暗くなるが、大人が笑顔で機嫌が良いと子どもは明るく楽しくなると。今回の小地域福祉活動計画は、地域の皆さんと一緒に考え、一緒に行動し、一緒に問題解決に当たれば、きっと良い地域になると信じています。

また、以前私は間接的ですが、青少年に関する仕事をしていました。当時、「切れる子、昔優秀、今危険」という川柳がありましたように、全国的に中学生、高校生が荒れていて、青少年育成に関する施策が非常に重要な課題になりました。最近は落ち着いてきたようで、以前の様に青少年問題があまり話題にならなくなりました。中学校になるころは精神的に不安な状態です。生物学的には大人ですが、社会的にはまだまだ子ども、このギャップが青少年問題の根底にあると、どこかで聞いたことがあります。若い頃を経験した地域の先輩が、不安定な精神状態の青少年を優しく見守ることは非常に重要です。皆様と一緒に考えながら、青少年育成事業を進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。

光貞市民センター30周年記念式典



30周年記念音楽祭

